
ぺちよもちよ。

佐津良亮助

注意事項

このPDFファイルは小説サイト「小説家になろう」で掲載中の小説を、「PDF小説ネット」の変換システムが自動的にPDF化したものです。この小説の著作権は作者にあり、作者または「小説家になろう」および「PDF小説ネット」を運営するウメ研究所に無断でこのPDFファイルおよび小説を引用を超える範囲で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止します。小説の紹介や個人用途での印刷および個人用途での保存はご自由にどうぞ。

【小説名】

ぺちよもちよ。

【コード】

N7086D

【作者名】

佐津良亮助

【あらすじ】

気の小さな男の子、東辺とボーイッシュな女の子、小紐は幼馴染。ある日、東辺は小紐に無理なお願いをされてしまう。さて、その無理なお願いとは一体？

ぺちよもちよ。

ぺちよもちよ。

必死で抵抗してみても、必死で叫んでみても、必死で暴れてみても、必死で泣いてみても、どうにもならなかった。どうすることも出来なかった。ただ、東辺惣太郎とうへそつたろうは、為すがまま、為されるがままに彼女 小紐鎌足こひもかまたりの言いなりになるしかなかった。東辺の目からは止め処もなく涙が溢れている。その様は小動物が肉食獣に捕獲されてしまったようにも見えなくもない。

東辺は身長164センチと低身長で、顔立ちは童顔。髪は縛つてはいないものの、長く、綺麗な髪をしている。ただ、何故か青いというのが気にかかるが……。それはさておき、東辺は一見すると女の子にも見えるのだ。高校2年生なのにもかかわらず、声変わりをした様子も感じられないほど、声は高く、「合唱での担当パートは俄然ソプラノです」と言わんばかり。そういえば、東辺が2年生になったのとはほぼ同じ時期に、告白をされていたことがあった。男に……。その夜、東辺が枕を濡らしたのは言うまでも……。あるかもしれない。まだ、東辺が泣き虫であるということを言っただけから。

「ぺちよ。動かないでよ」

小紐が東辺を押さえつけて言う。「なんて力なんだ……」と東辺は若干焦りながら心の中でつぶやいた。小紐は東辺とは対称的で、身長176センチと高身長。顔立ちは幼くはないが美人の範囲にすっぽりと入っている。髪はボーイッシュな感じの ショートカット。こちらの髪色は赤い……。校則はどうなってるんだ？ スカートの嫌いなのか、中が見えるのがイヤなのか、スカートの下にはスパッツをはいている。好きな教科は体育、嫌いな教科は五教科（国語、数学、英語、理科、社会）という感じだ。ちなみに、東辺の好きな教科は国語、数学。嫌いな教科は体育だ。

さらに、ちなみの話。「ぺちよ」というのは、東辺のあだ名であ

る。「とうぺ」の「ぺ」から来ているらしい。まあ、そんなことは置いておいても全く問題ではない。

「動かないでよって言っても、動けないよ〜放してよ〜」
間延びした感じで東辺が言う。

「足をジタバタさせるなっってことよ。さっきから痛いんだけど」

「そりゃあ、ジタバタさせるよ〜イヤだもん……急に押さえつけられてさ……」

そりゃあ、そうだ。急にそんなことされたら、誰でも暴れる。

「だっってさ……見てみたいんだもん……ぺちよの……」

ん？ 何、頬を赤らめてるんだ小紐。

「やだよ。恥ずかしいもん！」

東辺も顔を赤らめてる。

「見せてよ」

「いやだ」

おいおい。何だ？ 小紐は何を見せてほしいんだ？

“この作品は18禁です”

いや！ 違う！

断固として違う！ 作者はいろんな意味で18禁作品をかけないはずだ。いろんな意味で……。

まあ、色々と事情があるんですよ。

そんなことはどうでもいい。関係ない。

「女装しろなんて……そんな無茶な」

「絶対似合ってるから、あたしの妹の服持ってきたからさ、これ着てよ」

ぺちよもちよ。

よかったですね。18禁じゃなくて。All ages can be read for this novel.

東辺はまだ泣いていた。目からはこれでもかと言うほどに涙が溢れている。小紐はそんな東辺を部活で鍛えた素晴らしい筋肉で押さえつける。東辺の体に小紐の胸が当たって、羨ましい感が否めないが、今の東辺にはそんなこと全く気にする余裕はなかった。

「このまま、嫌がり続けると、無理矢理キスするぞ」

小紐がふとそんなことを言った。

「別にいいもん」

東辺はあっさりと返した。

「う……」

小紐はたじろいだ。まさか、そんなあっさり返されるとは思ってもみなかった。まあ、いいや。そんなことは気にしない。小紐は東辺へ顔を近づけた。

「いいの？ 本当にしちゃうよ？」

「女装するよりかマシだよ」

「……」

がばつと、小紐はいきなり、東辺にキスをした。唇と唇が重なる。小紐は東辺の口へ舌をねじ込む。東辺は気にせずその舌を受け入れる。卑猥である意味猥褻な音が教室に響く。湿った音。舌と舌が絡みつく音……エロティシズムの世界か？

18禁じゃないですよ？ All ages can be read for this novel.

15禁ぐらいかな？ This novel can't read to less than 15 years old.

ぺちよもちよ。
阿呆な羅列はこの辺にして。

キスは長く続いていった。東辺が降参するまで、小紐が疲れるまで。東辺が女装をするというまで、小紐が淫猥な気分になるまで。

本当に長いキスだ。そして、凄くエロい。東辺も小紐も顔は真っ赤。「無理矢理キスするぞ」と言っていた小紐だったが、さすがにキスするのは恥ずかしかったようだ（東辺に無理矢理OKを出させるための言葉に過ぎなかったのに）。

だが、この長いキスの合戦の勝者は小紐だった。

法螺貝の音が鳴り……………響くわけねえじゃん。

「ぷはっ」

東辺はぐったりとしていた。そりゃあ、長くキスを続けていればどちらかが酸欠で いや、淫猥に……………でもないか。東辺のほうが観念したようだ。小紐は目をきらりと光らせた。まさに、肉食獣が小動物を食らうかのような そんな目をしていた。

「なかなかやるわね。だけど、あたしにキスで勝とうなんて、十万年早くつてよ?」

お前はデーモン小暮閣下か。10万とんで17歳か? 世界の創世は知らなくても、いろんな事知ってそうだ。

「うっ……………」

東辺は顔を真っ赤にしたまま泣きじゃくった。またかよ。泣き虫にもほどがある。

「まったく、小紐は突拍子のないことを言うんだから」。東辺にとつて小紐は大変困り者である。幼馴染で、幼稚園のころからずっとクラスも一緒。だからこそ、なかなか頼めないことも頼めてしまいう間柄になったのかもしれない。東辺は小紐に弱い 転じると、小紐も東辺に弱いのもかもしれない。それは定かではないけれど。

「泣かないの!」

「うっ……………ひっく……………」

「うっ……………泣かれると……………苦手なんだよなあ、べちよに泣かれるの」

あ、今判明した。小紐も東辺に弱い。特に、東辺の泣きに弱い。

「ひっく……………もちよ」

べちよもちよ。

泣きながら、東辺は小紐を呼んだ。東辺が「ぺちよ」なら、小紐は「もちよ」。単純明快、気分爽快、生徒総会……株主総会？

すみません、ただ単に韻を踏んでみたかったです。

「何？ ペちよ」

「じよ……グスン……女装するから……もう、無茶なこと……言わないでね」

あつさりしてんな、こいつ（東辺）。まあ、小紐に無茶振りされないようにするための策だとしたら、最善策なのかもしれない。

「無茶なこと？ はて、あたしそんなに、無茶振りしてたかな？」

本人は無茶振りだとは思っていないご様子。なんか、これ見てる
と、上下関係がはつきりしてるな。

「してたじゃん……」

むっすーと、頬を膨らませて東辺は言った。可愛いなあ。本当に、高校2年生かよ？ 小学生じゃないのか いや、小学生にしては身長がありすぎるか。

さすがの小紐も、少々参ったらしく、苦笑した。

「ごめんてば。もう、無茶振りしないよ」

「ほんと？」

ただ、実際のところは心の中で極悪な笑みを浮かべていた小紐なのであった。ご愁傷様……ぺちよ。

「じゃあ、はい。これ」

小紐は東辺に女物の服を 小紐の妹・妃子の物を渡した。

妃子の体軀は東辺と同じ感じ。胸があるかないかの違いだけで、身長も足のサイズも同じくらい。そんな小紐の妹・小紐妃子は中学1年生。164センチはデカイな。中1でだぞ？ むしろ、女の子にしては背の高いほうなのかもしれない。

「妃子ちゃんのか……」

「何想像してんの？」

「えー？ あ、いや……何も……」

「じゃあ、なんで顔が赤いのよ」

ぺちよもちよ。

「これは……」

まさか、妃子の服であんなことを想像してしまうなんて。破廉恥極まりない。顔が赤い理由がそんなことなんて、とても言えない。

「こ……これから、この服着るって言うのが、恥ずかしいんだよう」
苦し紛れの弁解。小紐の顔がニヤニヤとしている。

「ふうん……ま、いいわ。早速着ちゃってよ」

「う……うん」

東辺は、顔を赤らめたまま学ランのボタンを一つ一つ外し始めた。
エロい……エロくはないか。小紐はじつと見ている　見てるの？

「！！　もちよ！　いつまで見てんのさ？」

「え？」

「え？　じゃないよ。着替えるんだから、じつと見てないだよ」

「じゃあ、チラチラ見てようか？」

「それもやだなあ」

東辺は肌蹴た学ランを見た。

「あ、これ被っててよ」

と小紐に学ランを渡した。

「被っててよって……」

「いいから」

小紐は渋々、学ランを頭にかぶせた。ちょうど前が見えなくなるように。何だか、端から見てるとアホっぽい。でも、こうしないと東辺の生着替えが……ねえ。

「あ、凄くいいにおいがする……バニラ？」

「ちよつと、何臭い嗅いでんの？」

「え？　だって、普通にいい匂いなんだもん。甘い匂い」

「バニラ………あ、さつきアイスこぼしたんだ」

「なにやってんの？　本当におつちよこちよいなんだから」

こぼすな、東辺。子供かお前は。

「だから、さつきキスしたときに甘かったんだ」

「え？　そうだった？」

ぺちよもちよ。

「うん。特に口の周り」

口の周りに付いたやつは舐め取れよ、東辺。子供かお前は。

「あ、でもバナナ以外の匂いもする」

「どんな匂い？」

「赤ちゃんみたいなの……ミルクの匂い」

ミルクの匂いって、東辺。子供かお前は。

「ミルクの匂い？」

「裕夢ちゃんのこと？」

「あ、そうかも。朝、ミルクあげたし」

「可愛いよね、裕夢ちゃん」

裕夢ちゃん。東辺の妹。東辺裕夢。つい最近生まれたばかりで、

もう東辺はデレデレなのである。

ちなみに、東辺には姉がいる。結構ずぼらな「お姉さん」という

より「姐さん（旅館の人にあらず）」って感じ。東辺双葉。ふた

ばではなく、「そうは」。よく間違われると本人は嘆いていると

か、いないとか。特徴としては才色兼備、文武両道、唯我独尊、買

わなきやハドソン。

ちよくちよくすみません。くだらなくて。

東辺はよくパシられているらしいが、双葉さんはとても面倒見が良く、とても優しいお姉さん。何気に小紐が憧れている存在でもある。

「着替えた？」

突然話を変える小紐。話していたのに「着替えた？」はないですよ。

「まだ。もうちょっと待って」

お前も着替えるの早いな、東辺。

「あれ？ これどうやって履くの？」

東辺は何か戸惑っている様子。どうやらスカートがうまく履けないらしい……ちよっと待て！ スカートで何を悩む？

「スカートで何を悩む？」

ぺちよもちよ。

小紐は大声を出した。それを聞いて東辺は思いつきり驚いた。小紐の感性にピッタリとハマったらしい。ジャストミート、丁度豚肉豚肉？

小紐は東辺に近寄り、「可愛い可愛い」と言って抱きしめた。そりやあもつ、小さな女の子が誕生日に買って貰ったぬいぐるみを抱きしめるかのように。

「痛い、痛いってば。もちよ」

「だって、可愛いんだもん」

「いや、僕としては凄く恥ずかしいんだけどね？」

「食べちゃいたい」

「えっ!？」

「こらこら。そんなことしちゃったら、本当に18禁になっちゃうから。駄目駄目！」

「食べるなら僕の家で」

おい。東辺惣太郎……いや、東辺惣子ちゃん。お前、そんなこと言えるような奴じゃないだろ？ というか、そんなこと言っちゃ駄目だって言って……

「じゃあ、帰る？」

「……」

「このままで？」

「……」

「出来れば、そのままです」

「……」

「ええ？ じゃあ、学ラン返してよ」

「……」

「駄目。これ着ちゃったら駄目でしょ？」

「……」

「むしろ、萌えるかもよ？」

「……おい。」

「え、じゃあ着てみてよ」「

ぺちよもちよ。

……おい。

「着たよ」

おい。

「可愛いじゃん！じゃあ、それで帰る？」

こら。

「うん」

おいこら、お前らどういう見だ！？いきなり、濃厚なラブラブっぷりを発揮しやがって！幼馴染じゃないのか？

「僕、君が彼女でよかったよ」

東辺がそんなことを顔を赤らめて言いやがった。言い放ちやがった。

返せ！作者の構想を返せ！グダグダにしゃがって！

そのグダグダになるかどうかというのは、全て僕のさじ加減だったりします。

最後に、本作（「ぺちよもちよ。」）は18禁ではありません。どちらかといえば、R12です。

ぺちよもちよ。

(後書き)

久しぶりの投稿でした。こんにちは、維井です。

本当にグダグダな短編ですみません。尽力したつもりですが、グダグダでした。

次回、何を書くかはまだ決まっていますが、とりあえず、連載でも……と考えております。

最後になりましたが、閲覧有難うございました。

ぺちよもちよ。

ぺちよもちよ。

PDF小説ネットは2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

PDF小説ネット発足にあたって

広告募集中

小説関連広告に最適です。

出版社や印刷会社はもちろん、
個人の広告でもOK

縦：140mm 横：110mm

詳しくはPDF小説ネット広告募集をご覧ください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7086d/>

ぺちよもちよ。

2008年11月7日08時50分発行